

2019 年度「阿蘇の茅材」商品化・事業化に向けた実証事業

- 実施主体 公益財団法人阿蘇グリーンストック
- 実施場所 阿蘇地域の草原など
- 実施期間 令和元年8月～令和2年3月末



<背景・ねらい>

昨年度までの3年間で実施した、茅場の調査や実技講習会、集荷・運搬・保管管理の実証実験の結果、「阿蘇の茅材」の商品化・事業化における高い可能性が明らかとなった。

そこで本年度は、昨年度実績 3,500 束の倍以上となる 8,500 束の茅束制作を目標として、参加牧野や参加者数を拡大するための普及啓発活動や、参加者の研修・視察を通して技術の普及と事業へ取り組む基本認識の共有を進める。

■実施概要

○茅束の制作・集荷・運搬・保管管理

- ・製作した茅束を2か所で保管し、年度内に3,000束出荷した。

○京都・美山集落への視察研修

- ・昨年度の実証事業に参加した地元牧野組合と野焼きボランティアの中から代表で5名とともに、実際に阿蘇の茅束が使用されている京都の美山茅葺き集落に行き、茅葺き屋根の視察や茅葺き職人との交流を行った。

○野焼き支援ボランティアによる茅刈りの意見交換会開催

- ・昨年度参加した野焼きボランティアを対象に意見交換会を行い、今年度の進め方や注意点などを検討した。

○地元牧野組合への参加呼びかけ資料作成および説明会の開催

- ・地元牧野向けのパンフレットを主に阿蘇市の牧野組合に配布し、説明会への参加を呼びかけた。(参加：12牧野15名)



茅刈り



美山かやぶきの里(京都)研修

■実施体制

- ・事務局：(公財)阿蘇グリーンストック、(株)GSコーポレーション
- ・協力：阿蘇地域の牧野組合等、野焼き支援ボランティア、阿蘇地域世界農業遺産推進協会

■成 果

- ・茅刈り制作：地元牧野組合 3,675 束、野焼きボランティア 5,092 束、計 8,767 束
- ・美山茅葺き集落への視察研修の実施によって、阿蘇の茅の良さや全国的に茅材が不足していることを実感し、今後の茅刈りの意欲向上や阿蘇の草原の価値を再認識することができた。
- ・意見交換会で、より良い作業方法やリスクを議論したことで、わかりやすい説明会や現場での研修会を実施できた。その結果、新たに15名が茅刈り作業に登録した。
- ・新たに6牧野(団体)が茅束製作に参加し、茅事業の広がりにつながった。



地元牧野組合への説明会

■実施者の感想

- ・雨や降灰の影響で、いくつかの牧野が茅刈りを実施できなかったが、新たに参加した牧野の頑張りや、野焼きボランティアの参加者が増加したおかげで目標数を達成することができた。
- ・地元への呼びかけを拡大したことにより、茅刈りへの理解が広がった。また、今年度は新聞やテレビ等の報道でも大きく取り上げられ、阿蘇で良質な茅束が収穫できることがアピールできた。
- ・今後はさらに広く呼びかけを行い、日本一の草原を保有する阿蘇地域が茅場の産地となれるよう普及啓発に努めたい。